

北海道観光入込客数調査報告書

平成28年度

平成29年8月

北海道経済部観光局

北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

1 北海道観光入込客数調査について

本調査は、観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に準じて平成22年度に道が改正した「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、観光入込客数などを推計したものです。

2 調査内容

(1) 観光入込客数（実人数）

市町村が行う観光地点等入込客数調査、道が行う観光地点パラメータ調査及び観光庁が提供する宿泊観光入込客数などのデータなどにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

訪日外国人来道者数（実人数）については、日本政府観光局（JNTO）の訪日外客数や訪日外客訪問地調査などにより推計した北海道を訪れた外国人の実人数

(2) 観光入込客数（延べ人数）

各市町村の観光入込客数を集計した観光入込客数の延べ人数

延べ人数：市町村の実人数の単純合計

（1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。）

(3) 観光消費額単価

観光地点パラメータ調査により、道内客、道外客、外国人について、「観光」、「ビジネス兼観光」別に推計した観光消費額単価

3 利用上の留意事項

各数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

I 観光入込客数（実人数）

1 概況

平成28年度の観光入込客数は、5,466万人となりました。

3月に北海道新幹線が開業し、7月から9月にかけて「青森県・函館デスティネーションキャンペーン」が展開されたほか、8月に新設された祝日「山の日」や冬期間の流水観光などによる旅行需要の伸びが見られましたが、5月のゴールデンウィークや6月は天候に恵まれず、さらに8月から9月にかけて発生した台風等により主要な鉄道路線の運休や幹線道路の通行止めが続いたことなどから、過去最高だった前年度の5,477万人に達しませんでした。

2 道内客・道外客・外国人別

道内客・道外客・外国人別にみると、道内客は4,642万人、道外客は594万人、外国人が230万人となり、構成比では、道内客が84.9%、道外客が10.9%、外国人が4.2%となっています。

3 日帰り客・宿泊客別

日帰り客・宿泊客別にみると、日帰り客は3,655万人、宿泊客は1,811万人となり、構成比では、日帰り客が66.9%、宿泊客が33.1%となっています。

4 四半期別

四半期別にみると、第1四半期が1,518万人（構成比27.8%、前年度比0.3%増）、第2四半期が2,057万人（同37.6%、同1.6%減）、第3四半期が868万人（同15.9%、同1.1%減）、第4四半期が1,023万人（同18.7%、同2.7%増）となっています。

<平成28年度 観光入込客数(実人数)>

区分	日帰り客	宿泊客	計	前年度比	構成比	
第1四半期 (4～6月)	道内客	1,088万人	248万人	1,337万人	△0.7%	88.1%
	道外客	2万人	138万人	140万人	+8.5%	9.2%
	外国人	—	42万人	42万人	+8.8%	2.8%
	合計	1,090万人	428万人	1,518万人	+0.3%	100.0%
第2四半期 (7～9月)	道内客	1,509万人	279万人	1,788万人	△2.2%	86.9%
	道外客	10万人	201万人	211万人	+1.0%	10.3%
	外国人	—	58万人	58万人	+10.8%	2.8%
	合計	1,519万人	538万人	2,057万人	△1.6%	100.0%
第3四半期 (10～12月)	道内客	453万人	241万人	694万人	△2.5%	80.0%
	道外客	4万人	119万人	124万人	+1.6%	14.3%
	外国人	—	50万人	50万人	+13.5%	5.8%
	合計	457万人	410万人	868万人	△1.1%	100.0%
第4四半期 (1～3月)	道内客	585万人	239万人	824万人	+2.2%	80.5%
	道外客	3万人	116万人	119万人	+1.7%	11.6%
	外国人	—	80万人	80万人	+9.7%	7.8%
	合計	588万人	435万人	1,023万人	+2.7%	100.0%
合計	道内客	3,635万人	1,007万人	4,642万人	△1.1%	84.9%
	道外客	20万人	574万人	594万人	+2.9%	10.9%
	外国人	—	230万人	230万人	+10.6%	4.2%
	合計	3,655万人	1,811万人	5,466万人	△0.2%	100.0%

5 訪日外国人来道者数（実人数）

(1) 概況

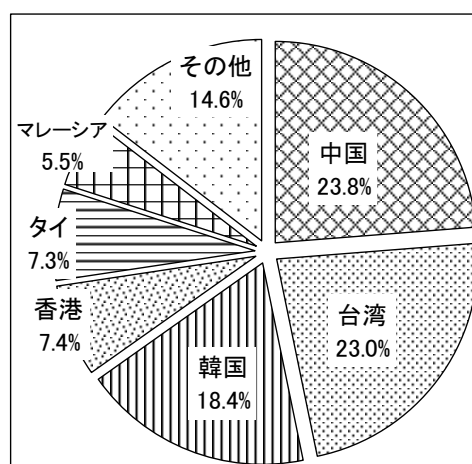
平成28年度の訪日外国人来道者数は、韓国やASEANと北海道を結ぶ国際航空路線の新規就航や増便に加え、10月末の新千歳空港の発着枠制限の緩和による増便などにより、前年度に比べて10.6%増加し、230万人となり、過去最高を更新しました。

なお、これは日本全体の平成28年度訪日外国人旅行者数2,482万人の9.3%となっています。

(2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は202万6,500人で、前年度に比べて9.7%の増加となりました。

国・地域別で見ると、中国が54万6,600人（前年度比1.4%減）と最も多く、次いで、台湾が52万9,600人（同3.3%減）、韓国が42万4,300人（同41.7%増）、香港が17万800人（同3.5%増）、タイが16万8,700人（同8.7%増）、マレーシアが12万5,800人（同64.9%増）となっており、特に韓国とマレーシアは非常に大きな伸びを示しました。



来道者数の多い主要な国・地域別の特徴は次のとおりです。

中国	10月末の新千歳空港の発着枠制限の緩和による増便があった一方、函館空港や旭川空港への直行定期便の運行休止などにより、2年連続して急増した伸びが一服し、ほぼ前年度並みとなりましたが、昨年度に続き国・地域別のトップとなっています。
台湾	台湾から東南アジア各地へのLCC路線拡大等を背景とした外国旅行需要の周辺諸国への分散化や、さらに中堅航空会社の解散による北海道への直行便の座席供給量の減少などマイナスとなる外的要因が重なり、前年度比約3%減となりました。
韓国	韓国の外国旅行者数が増加傾向にあった中、北海道人気の高まりに加え、直行定期便の新規就航や増便が相次いだことなどにより、北海道を訪れやすい環境になったことから前年度比約42%増と大きな伸びとなり、訪日外国人来道者数押し上げの牽引役となりました。
香港	北海道へのリピート率が高く、道央圏をはじめ道内各地への旅行や秋季に多くの観光客が訪れるといった傾向があり、年間を通じて安定的に観光客が訪れており、前年度比約4%増となりました。
タイ	10月の前国王の崩御により一時的に旅行自粛の影響が見られましたが、タイで9月から上映された北海道を舞台にした映画のヒットや、ロケ地をめぐるツアーが人気を集めたことなどから、秋冬の来道者が増加し前年度比約9%増となりました。
マレーシア	前年秋のクアラルンプールと新千歳空港を結ぶLCCの直行定期便の就航や北海道のPRにより観光客が大幅に増加し、前年度比約65%増と大きな伸びとなりました。なお、マレーシアからの訪日旅行者数の約31%が北海道を訪れています。

<平成28年度訪日外国人来道者数(実人数)>

(単位:人)

区 分		中 国	台 湾	韓 国	香 港	タイ	マレーシア	シンガポール	小計
第1四半期 (4~6月)	28年度	101,800	102,900	66,100	36,200	27,600	29,900	10,900	375,400
	27年度	110,200	101,600	51,200	35,000	28,000	14,400	9,400	349,800
	前年同期比	△7.6%	+1.3%	+29.1%	+3.4%	△1.4%	+107.6%	+16.0%	+7.3%
第2四半期 (7~9月)	28年度	101,600	146,000	137,100	44,400	41,800	39,000	20,600	530,500
	27年度	108,400	158,900	90,700	47,100	42,400	18,800	17,200	483,500
	前年同期比	△6.3%	△8.1%	+51.2%	△5.7%	△1.4%	+107.4%	+19.8%	+9.7%
第3四半期 (10~12月)	28年度	92,200	142,200	87,900	53,700	25,400	26,000	21,400	448,800
	27年度	93,000	144,900	59,300	48,800	20,700	19,300	16,700	402,700
	前年同期比	△0.9%	△1.9%	+48.2%	+10.0%	+22.7%	+34.7%	+28.1%	+11.4%
第4四半期 (1~3月)	28年度	251,000	138,500	133,200	36,500	73,900	30,900	7,800	671,800
	27年度	242,700	142,400	98,300	34,200	64,100	23,800	6,500	612,000
	前年同期比	+3.4%	△2.7%	+35.5%	+6.7%	+15.3%	+29.8%	+20.0%	+9.8%
合 計	28年度	546,600	529,600	424,300	170,800	168,700	125,800	60,700	2,026,500
	27年度	554,300	547,800	299,500	165,100	155,200	76,300	49,800	1,848,000
	前年同期比	△1.4%	△3.3%	+41.7%	+3.5%	+8.7%	+64.9%	+21.9%	+9.7%

区 分		米 国	オーストラリア	カナダ	ロシア	その他	合計
第1四半期 (4~6月)	28年度	7,600	7,600	2,700	2,500	20,200	416,000
	27年度	6,000	5,000	2,300	2,600	16,700	382,400
	前年同期比	+26.7%	+52.0%	+17.4%	△3.8%	+21.0%	+8.8%
第2四半期 (7~9月)	28年度	12,600	5,600	5,200	2,800	21,600	578,300
	27年度	9,800	4,300	3,800	3,400	17,000	521,800
	前年同期比	+28.6%	+30.2%	+36.8%	△17.6%	+27.1%	+10.8%
第3四半期 (10~12月)	28年度	8,900	5,400	4,600	2,200	33,500	503,400
	27年度	6,500	4,600	3,300	1,900	24,600	443,600
	前年同期比	+36.9%	+17.4%	+39.4%	+15.8%	+36.2%	+13.5%
第4四半期 (1~3月)	28年度	36,000	29,600	7,600	2,800	55,700	803,500
	27年度	30,400	32,600	6,700	2,300	48,200	732,200
	前年同期比	+18.4%	△9.2%	+13.4%	+21.7%	+15.6%	+9.7%
合 計	28年度	65,100	48,200	20,100	10,300	131,000	2,301,200
	27年度	52,700	46,500	16,100	10,200	106,500	2,080,000
	前年同期比	+23.5%	+3.7%	+24.8%	+1.0%	+23.0%	+10.6%

※参考 インドネシア、フィリピン、イギリスについて、参考値として試算したところ、「その他」131,000人のうち、インドネシアが26,000人、フィリピンが11,500人、イギリスが11,500人となっております。

Ⅱ 観光入込客数（延べ人数）

1 総数

平成28年度の全道179市町村における観光入込客数(実人数)を合計した総数(延べ人数)は、1億4,099万人で、前年度とほぼ横ばい(前年度比0.1%増)となりました。

また、宿泊客延べ数の合計は、3,498万人泊で、前年度に比べて0.8%の増加となりました。

2 圏域別

圏域別の観光入込客数(延べ人数)を見ると、北海道新幹線の開業効果を大きく受けた道南圏が前年度に比べて15%増加しましたが、他の5圏域は8月から9月にかけて発生した台風等の影響などにより前年度を下回りました。

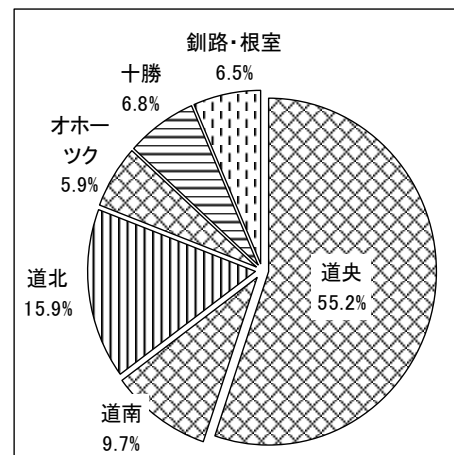
また、宿泊客延べ数では、道南圏が大きく増加したほか、釧路・根室圏、十勝圏が前年度に比べ増加しました。

なお、各圏域の観光入込客数の特徴は次のとおりです。

道 央 圏	入込みが増加した観光施設があったものの、天候に恵まれず集客が伸びなかったイベントがあったほか、8月から9月にかけて発生した台風等による悪天候の影響で行楽の出足が鈍ったことなどからほぼ横ばいとなりました。
道 南 圏	3月に北海道新幹線が開業したに加え、7月から9月にかけて「青森県・函館デスティネーションキャンペーン」が展開されたほか、地域の魅力を発信する観光施設のオープンが増加を後押ししました。
道 北 圏	知名度のある観光スポットが国内外の観光客から根強い人気を保っていることや、JR留萌線留萌一増毛間の12月廃止前の乗客増などがあったものの、8月から9月にかけて発生した台風等による観光施設の休止があったことなどから減少しました。
オホーツク圏	芝桜など花観光の時期や夏休み時期に外国人観光客が増加したに加え、スポーツ合宿の受入が定着し、夏のイベントや冬の流氷観光が好調だったものの、8月から9月にかけて発生した台風等により鉄道路線が運休したことなどから減少しました。
十 勝 圏	夏の大規模イベントの開催などにはありましたが、8月から9月にかけて発生した台風等による鉄道路線の運休や幹線道路の通行止めが続き、宿泊施設のキャンセルや秋のイベントの中止に見舞われたことなどから減少しました。
釧路・根室圏	3月の道東道白糠・阿寒間の開通による交通アクセスの向上に加え、夏の長期滞在客の増加や冬の野鳥観光の集客はありましたが、8月から9月にかけて発生した台風等による鉄道路線の運休や道路の通行止めがあったことなどから微減となりました。

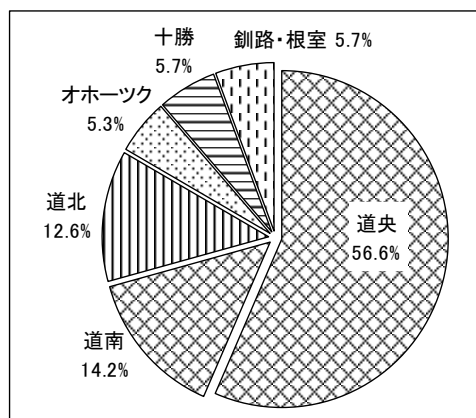
<圏域別観光入込客数(延べ人数)>

圏 域	観光入込客数	前年度比	増減数	構成比
道 央	7,786万人	△0.1%	△5万人	55.2%
道 南	1,373万人	+15.0%	+179万人	9.7%
道 北	2,237万人	△1.4%	△32万人	15.9%
オホーツク	836万人	△4.1%	△36万人	5.9%
十 勝	956万人	△7.7%	△80万人	6.8%
釧路・根室	913万人	△0.6%	△6万人	6.5%
合 計	14,099万人	+0.1%	+20万人	100.0%



〈圏域別宿泊客延べ数〉

圏域	宿泊客延数	前年度比	増減数	構成比
道央	1,981万人泊	△2.0%	△41万人泊	56.6%
道南	497万人泊	+16.3%	+70万人泊	14.2%
道北	440万人泊	△1.0%	△5万人泊	12.6%
オホーツク	184万人泊	△1.6%	△3万人泊	5.3%
十勝	198万人泊	+0.9%	+2万人泊	5.7%
釧路・根室	199万人泊	+1.9%	+4万人泊	5.7%
全道	3,498万人泊	+0.8%	+27万人泊	100.0%



3 市町村別

観光入込客数（実人数）を市町村別で見ると、札幌市が1,388万人（前年度比1.7%増）で最も多く、次いで、小樽市791万人（同0.5%減）、函館市561万人（同13.3%増）、以下旭川市、千歳市、釧路市、登別市の順となっています。

一方、宿泊客延べ数で見ると、札幌市が1,136万人泊（前年度比6.4%減）で最も多く、次いで、函館市443万人泊（同16.9%増）、釧路市145万人泊（同5.4%増）、以下、登別市、倶知安町、帯広市、小樽市の順となっています。

〈観光入込客数(実人数)の多い市町村〉

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市	1,388万人	+1.7%
2	小樽市	791万人	△0.5%
3	函館市	561万人	+13.3%
4	旭川市	531万人	△4.0%
5	千歳市	519万人	+1.7%
6	釧路市	460万人	+8.1%
7	登別市	385万人	△1.6%
8	洞爺湖町	307万人	+1.9%
9	喜茂別町	255万人	△7.6%
10	帯広市	248万人	△8.2%
11	壮瞥町	233万人	△2.2%
12	石狩市	211万人	+1.8%
13	七飯町	200万人	+4.0%
14	苫小牧市	193万人	+2.9%
15	上川町	187万人	△11.7%
16	富良野市	186万人	△1.1%
17	伊達市	181万人	△0.3%
18	白老町	177万人	△2.6%
19	二セコ町	167万人	△1.3%
20	美瑛町	166万人	△2.3%

〈宿泊客延べ数の多い市町村〉

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比
1	札幌市	1,136万人泊	△6.4%
2	函館市	443万人泊	+16.9%
3	釧路市	145万人泊	+5.4%
4	登別市	128万人泊	△0.4%
5	倶知安町	125万人泊	+23.0%
6	帯広市	108万人泊	+9.8%
7	小樽市	87万人泊	+5.9%
8	旭川市	86万人泊	+6.2%
9	洞爺湖町	70万人泊	+1.8%
10	北見市	70万人泊	△0.1%
11	上川町	66万人泊	△8.1%
12	富良野市	65万人泊	△14.0%
13	二セコ町	60万人泊	△6.6%
14	占冠村	47万人泊	+5.4%
15	網走市	46万人泊	△2.2%
16	斜里町	45万人泊	△2.8%
17	音更町	42万人泊	△4.0%
18	留寿都村	40万人泊	△2.8%
19	稚内市	37万人泊	△1.1%
20	壮瞥町	35万人泊	△3.7%

4 訪日外国人来道者の宿泊延べ数

(1) 国・地域別

平成28年度の訪日外国人来道者の宿泊延べ数は、635万2千人泊で、前年度に比べて3.1%の増加となりました。

国・地域別に見ると、台湾が154万5千人泊で全体の24.3%を占め最も多く、次いで、中国が145万5千人泊で22.9%、韓国が87万1千人泊で13.7%、香港が65万9千人泊で10.4%、タイが38万5千人泊で6.1%、以下シンガポール、マレーシアなどの順となっています。

(2) 圏域別

圏域別に見ると、道央圏が463万人泊と全道の72.9%を占め最も多く、次いで道北圏、道南圏、釧路・根室圏、十勝圏、オホーツク圏の順となっています。

前年度と比較すると、台風の影響が大きかった十勝圏、釧路・根室圏、オホーツク圏が減少した一方、道北圏、道央圏、道南圏は増加しました。

〈圏域別訪日外国人来道者宿泊延べ数〉

(単位:人泊)

圏域	ア ジ ア										
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	インド	インドネシア	フィリピン	ベトナム
道央	1,045,948	765,535	940,655	481,643	231,417	210,918	299,046	3,402	47,689	28,989	6,328
道南	107,447	22,393	251,449	15,378	16,689	15,946	21,056	2,664	5,038	622	183
道北	217,557	67,039	203,348	91,901	49,160	28,309	56,057	541	7,222	2,022	473
オホーツク	21,024	6,062	31,370	25,307	11,824	5,270	3,893	100	710	362	255
十勝	25,604	5,464	55,643	27,234	16,163	6,174	2,866	31	416	37	40
釧路・根室	37,838	4,523	62,920	17,849	11,883	7,523	2,277	51	1,033	368	218
全道	1,455,418	871,016	1,545,385	659,312	337,136	274,140	385,195	6,789	62,108	32,400	7,497
前年度比	△4.0%	+35.7%	△7.9%	△4.8%	+12.0%	+47.1%	+5.1%	+73.3%	+23.6%	+19.7%	+71.2%
構成比	22.9%	13.7%	24.3%	10.4%	5.3%	4.3%	6.1%	0.1%	1.0%	0.5%	0.1%

圏域	ヨーロッパ				北 米		オーストラリア	その他	計	27年度	前年度比
	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	アメリカ	カナダ					
道央	12,543	21,391	8,119	9,225	104,735	18,860	176,483	218,807	4,631,733	4,474,344	+3.5%
道南	213	977	464	512	7,546	1,662	3,158	7,430	480,827	478,103	+0.6%
道北	1,173	2,724	2,505	1,609	11,668	2,650	31,146	19,263	796,367	736,876	+8.1%
オホーツク	123	784	1,063	810	2,990	560	1,241	4,509	118,257	119,240	△0.8%
十勝	39	531	825	204	2,158	178	12,197	4,717	160,521	187,210	△14.3%
釧路・根室	1,503	1,416	1,142	745	3,682	673	1,842	6,692	164,178	167,860	△2.2%
全道	15,594	27,823	14,118	13,105	132,779	24,583	226,067	261,418	6,351,883	6,163,633	+3.1%
前年度比	△3.7%	△2.7%	+20.9%	+21.8%	+18.0%	+21.4%	△14.3%	+12.7%	+3.1%		
構成比	0.2%	0.4%	0.2%	0.2%	2.1%	0.4%	3.6%	4.1%	100.0%		

(3) 市町村別

市町村別に見ると、札幌市が251万人泊（前年度比2.9%増）で最も多く、次いで登別市が48万人泊（同2%増）、函館市41万7千人泊（同0.3%減）、倶知安町35万4千人泊（同9.4%減）、洞爺湖町28万2千人泊（同7.9%増）となっています。

【宿泊延べ数の多い上位5カ国・地域】

順位	国名	宿泊延べ数	前年度比
1	台湾	1,545,385人泊	△7.9%
2	中国	1,455,418人泊	△4.0%
3	韓国	871,016人泊	+35.7%
4	香港	659,312人泊	△4.8%
5	タイ	385,195人泊	+5.1%

【宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	2,509,576人泊	+2.9%
2	登別市	479,856人泊	+2.0%
3	函館市	416,917人泊	△0.3%
4	倶知安町	354,303人泊	△9.4%
5	洞爺湖町	281,822人泊	+7.9%

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	609,613人泊	△13.8%
2	登別市	86,227人泊	+8.1%
3	函館市	84,224人泊	△7.5%
4	洞爺湖町	83,412人泊	+6.9%
5	旭川市	74,190人泊	+16.8%

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	463,925人泊	+40.5%
2	登別市	98,717人泊	+30.3%
3	壮瞥町	35,876人泊	△4.5%
4	洞爺湖町	35,199人泊	+17.2%
5	小樽市	28,937人泊	+53.5%

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	508,091人泊	△4.5%
2	函館市	223,683人泊	△4.4%
3	登別市	174,524人泊	△13.8%
4	上川町	97,273人泊	△30.0%
5	洞爺湖町	92,869人泊	+5.8%

【香港の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	250,665人泊	△13.6%
2	倶知安町	65,331人泊	△16.0%
3	登別市	40,899人泊	△7.0%
4	ニセコ町	33,616人泊	△2.8%
5	小樽市	29,350人泊	+42.8%

【シンガポールの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	105,483人泊	+8.9%
2	倶知安町	41,868人泊	△1.8%
3	函館市	15,472人泊	+20.4%
4	ニセコ町	14,822人泊	+13.3%
5	登別市	14,809人泊	+2.1%

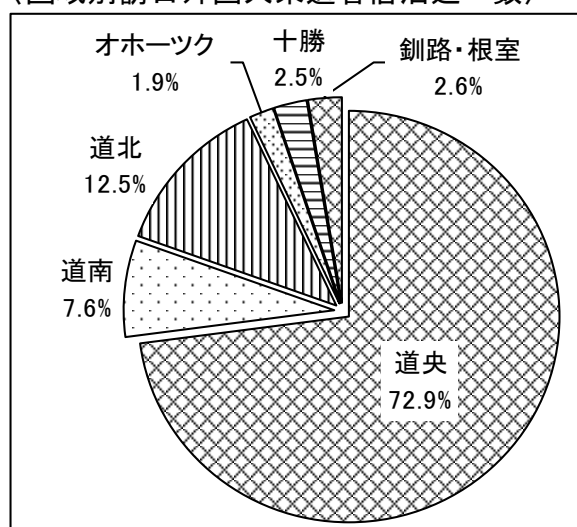
【タイの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	196,553人泊	+2.0%
2	旭川市	22,787人泊	+85.0%
3	上川町	21,445人泊	△3.7%
4	函館市	19,862人泊	+65.3%
5	小樽市	15,700人泊	△3.7%

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	倶知安町	97,966人泊	△35.6%
2	札幌市	28,901人泊	+25.4%
3	ニセコ町	24,856人泊	+24.1%
4	富良野市	17,624人泊	+19.3%
5	新得町	11,909人泊	△7.2%

〈圏域別訪日外国人来道者宿泊延べ数〉



Ⅲ 観光消費額単価

道内10の観光地点において実施したパラメータ調査により得られた観光消費額単価は、下表のとおりとなっています。

＜平成28年度 観光消費額単価＞

(単位:円)

区 分		日 帰 り	宿 泊	
第1 四半期 (4~6月)	道 内 客	観光	4,334 (4,286)	23,004 (22,541)
		ビジネス兼観光	4,482 (3,592)	15,695 (16,636)
	道 外 客	観光	10,250 (9,800)	78,543 (77,033)
		ビジネス兼観光	5,471 (6,281)	26,441 (24,476)
	外 国 人	観光	10,915 (14,141)	135,072 (151,491)
		ビジネス兼観光	7,363 (8,140)	63,972 (120,566)
第2 四半期 (7~9月)	道 内 客	観光	3,783 (3,472)	26,572 (26,147)
		ビジネス兼観光	4,718 (3,891)	16,114 (20,353)
	道 外 客	観光	25,304 (24,345)	87,743 (87,191)
		ビジネス兼観光	5,677 (5,857)	28,855 (24,222)
	外 国 人	観光	8,883 (9,511)	129,166 (150,498)
		ビジネス兼観光	7,176 (7,368)	67,962 (81,111)
第3 四半期 (10~12月)	道 内 客	観光	4,252 (4,163)	23,546 (23,083)
		ビジネス兼観光	3,458 (3,079)	17,223 (18,312)
	道 外 客	観光	21,556 (21,000)	70,036 (68,769)
		ビジネス兼観光	5,722 (4,900)	30,422 (24,462)
	外 国 人	観光	12,063 (8,763)	126,394 (150,537)
		ビジネス兼観光	9,435 (11,579)	63,196 (38,690)
第4 四半期 (1~3月)	道 内 客	観光	3,322 (3,074)	23,503 (22,071)
		ビジネス兼観光	3,475 (5,075)	16,900 (18,165)
	道 外 客	観光	24,500 (24,100)	78,239 (76,484)
		ビジネス兼観光	5,536 (5,455)	30,516 (24,493)
	外 国 人	観光	8,792 (8,921)	130,650 (141,670)
		ビジネス兼観光	5,810 (10,102)	68,868 (86,743)

※ () 内の数値は、前年度の単価です。

観光消費額単価は、道内10の観光地点で実施したパラメータ調査により得られたサンプルから算出しています。

なお、道内容、道外客、外国人客の「ビジネス兼観光」及び外国人の日帰りの単価は、観光庁から提供された値を掲載しています。

北海道観光入込客数調査報告書 [平成28年度]

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.htm>

平成29年8月

北海道経済部観光局観光戦略グループ

札幌市中央区北3条西6丁目

電話番号（代表）011-231-4111 内線 26-566

（直通）011-204-5302

FAX番号（直通）011-232-4120
